

健康

質問 健康診断で膵臓にしこりがあると言われ、精密検査で膵がんと診断されました。担当医から抗がん剤と手術を組み合わせる治療を提案されました。治療はどのようなものがありますか。



森根 裕二
徳島大学病院消化器・移植外科准教授

膵がんの治療

回答 膵がんは、死亡数第4位で、

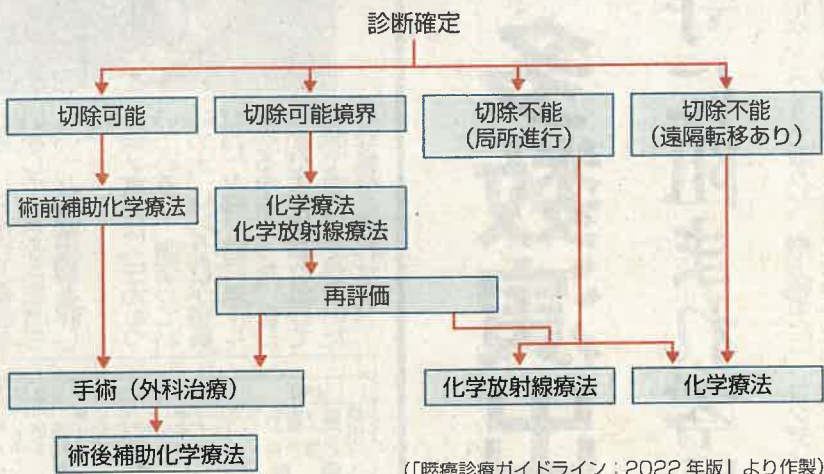
2019年の統計では年間4万3865人が罹患し、3万6356人が亡くなっている非常に予後の悪いがんです。理由の一つは、早期発見が難しく、見つかった時点で既に進行している場合が多いことが挙げられます。

膵がんの一般的な治療は、手術、化学療法（抗がん剤治療）、化学放射線療法（抗がん剤と放射線治療の併用）です。手術は膵頭十二指腸切除術や膵体尾部切除術などがあり、最近では腹腔鏡下やロボット支援下で行う施設もあります。

治療は、まず手術できるかどうかを判断します。切除可能（周囲の重要な血管をばさき込んでいない）▽切除可能境界（周囲の重要な血管をばさき込んである程度巻き込んでい

手術前後に化学療法

【膵がんの治療方針】



まずは切除可能か判断

る）▽切除不能（周囲の重要な血管を完全に巻き込んで局所進行していたり、別の臓器や遠くのリンパ節に遠隔転移している）に分類して判断します。手術できたとしても再発の可能性が高いことから全身の病気と考へ、手術の前後に化学療法を組み合わせます。

治療方針の詳細は、切除可能の場合（ごく早期の膵がんを除く）が、ゲムシタビンとテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウムとの2剤併用化学療法を行った後に手術し、術後にテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム単剤の補助化学療法を行います。

膵がんは、こういった治療方針が基本ですが、本人の希望や年齢、体力、持病なども考慮します。専門医の下で膵がんの進行がどの程度か判断し、治療方針について話し合うことをお勧めします。

このように術前後に化学療法を組み合わせることで、膵がんの治療成績は向上しました。切除不能と判断されても化学療法や化学放射線療法で十分な効果が認められれば、手術に踏み切ることもあります。

切除不能の場合は、ゲムシタビンとナブパクリタキセルの2剤併用化学療法（GnP療法）、オキサリプラチンとパクリタキセル、5-FUの3剤併用化学療法（FOLFIRINOX療法）のどちらかが選ばれることが多いです。切除可能境界の場合は、GnP療法やFOLFIRINOX療法などでがんを小さくし、遠隔転移がないことを再評価してから手術を行います。



がん何でもクイズ

子宮頸がんを予防するワクチンは何ですか。

- ①HPVワクチン
- ②DPTワクチン
- ③MRワクチン

行こうよ！がん検診

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
電話 088 (634) 6442
(平日午前8時半から午後5時まで) へ。

